

## 第6回宇宙輸送システム部会 議事要旨

1. 日時：平成25年5月28日（火） 15：00－17：00

2. 場所：内閣府宇宙戦略室5階会議室

3. 出席者

(1) 委員

山川部会長、白坂部会長代理、木内委員、鯨井委員、松尾委員、御正委員、薬師寺委員

(2) 事務局

西本宇宙戦略室長、明野宇宙戦略室審議官、國友宇宙戦略室参事官、山田宇宙戦略室参事官

4. 議事要旨

(1) JAXAからのヒアリング

JAXAより資料1に基づき、新たな基幹ロケット開発におけるJAXAの役割として、3つの点及び以下の説明があった。

①ロケット技術基盤の保持・活用

②我が国の総力を結集したロケット開発のためのシステム統合

③開発における技術マネジメント

○開発段階では、JAXAが中心となってマネジメントする。

○運用段階では、民間が中心となってサービスを提供する。

(2) 鯨井委員からの情報提供

鯨井委員より資料2に基づき、以下の説明があった。

○競争力のあるロケット開発においては、民間の力を活用した開発体制、即ち民間事業者をプライム・コントラクタとすることが必要。

○JAXAは射場整備と飛行安全に責任を持つべき。民間事業者は機体開発に責任を持つべき。

○JAXAとプライム・コントラクタを中心とした民間各社で総合力を発揮出来る体制を目指すべき。

○コストオーバーラン対策として、中間段階でゲートを設けて、コストやリスク管理を行うべき。

(3) 中間取りまとめについて

事務局より資料3の説明を行い、以下のような意見があった。

○良いものを作るというモチベーションは、政府系の機関よりも民間事業者の方が商業的に事業が展開できる等の可能性があることから、高く維持できる。

○民間事業者には品質管理など政府系の機関では意識の低い部分に強みがあり、民間事業者の主体性を重視すべき。

○小型固体ロケットである観測ロケットも、「7. 我が国宇宙輸送システムに関する今後の検討の在り方」で触れるべき。

○官民が一体となった日本の総合力を結集する仕組みが必要である。

○実用システムという言葉を使いやすく表現すべき。

○P. 7「輸送系の全体像を明らかにするとともに、～」を下記の通り修正。  
「輸送系の全体像を明らかにし、～」

審議の結果、中間取りまとめについては、委員会として了承された。

以 上